

「不知火」の食味向上のための水管理法

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

嗜好の多様化、高級化に対応できる品種として確立されてきた不知火(デコポン)の栽培面積は380ha、生産量2000tに達しようとしている。しかし、糖度は高いが、収穫時期(1月)になっても酸が高いため1~2月からの出荷がしにくい状況にある。このため、水管理による減酸方法について検討した。

研究の成果

1. 果実の肥大は、灌水期間が長い全期間灌水區が最も良く、次いで7月上旬~10月下旬までの灌水、11月~12月乾燥させた區で、生育期のはやい時期に乾燥させた區ほど劣った。
2. 葉色は灌水と関係が深く、灌水を行うほど葉色は濃くなり、乾燥させると淡くなった。
3. 着色は処理により余り差はないが、7~8月、11~12月乾燥し、9月~10月灌水した區でやや早い傾向がみられた。
4. 糖度は7~8月、9~10月乾燥ほど高く、全期間灌水と後期に灌水した區ほど低くなった。
5. 酸は全期間灌水、7~10月頃に灌水した區ほど酸の生成が少なく、消失も早い傾向がみられた。
6. 以上の結果、全期間灌水した區、及び7月上旬~10月下旬に灌水し、11月~12月に少水管理した區が酸の消失が早く食味が向上した。

表1 試験区

処理区	7月	8	9	10	11	12
1区	乾燥期間7/20.8/10			(オープン)		
2区	(オープン)		乾燥期間9/20.10/10		(オープン)	
3区	(オープン)				乾燥期間 11/20	
4区	乾燥期間7/20.8/10		(オープン)		乾燥期間 11/20	
5区	(オープン)					
6区	(霜地)					

注、乾燥期間は葉のしおれをみて、1～2回20mm灌水、月/日・灌水日・オープン期間は1週間に1回20mm灌水、灌水方法ホース灌水

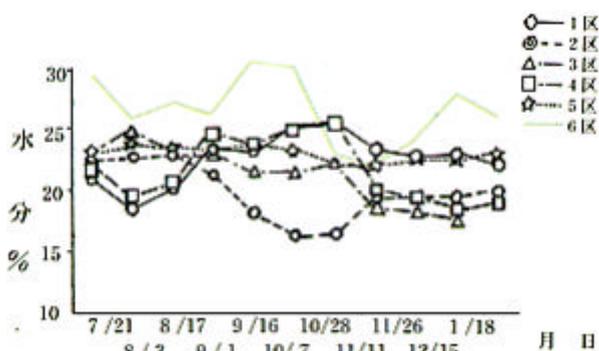


図1 土じょう水分の推移(10cm)

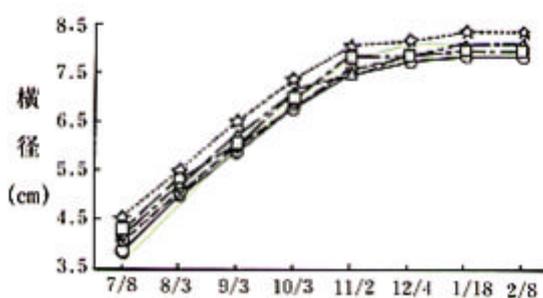


図2 果実の肥大促進

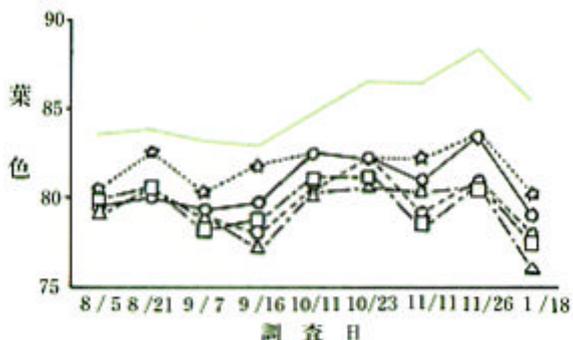


図3 時期別葉色の変化(葉緑素計数值)

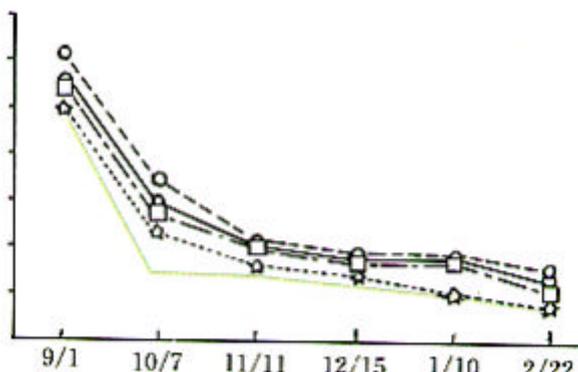


図4 着色の推移

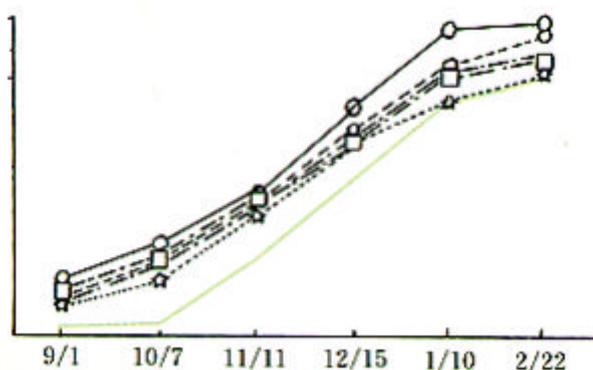


図5 糖度の推移

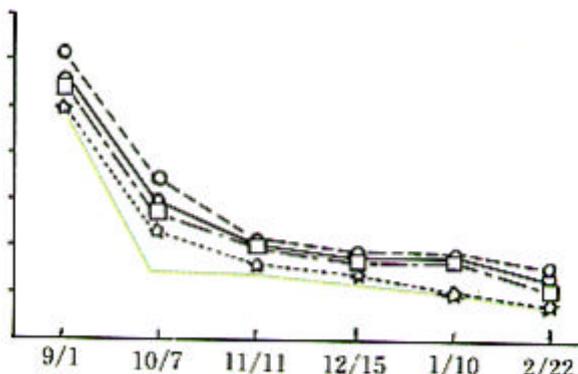


図6 クエン酸の推移